

パ  
ス  
ワ  
ー  
ド  
:  
9  
4  
0  
5

総務例会 村上浩二委員長

今年度、総務例会委員会の委員長を仰せつかりました村上です。この委員会は、基本、会の運営をスムーズに行う手助けをしていく事を、年間方針と考えてます。委員会としての独自活動は考えず、年6回の例会（総会・家族会・慶祝例会・・・）

（他）を担当していき、楽しく会員が参加したくなる例会を考えて行きたいと思っています。というわけで、手始めにこの9月例会ですが、事業承継をテーマとした例会を行います。（多分、そうなっているはずです。）最近、講師等受け身の例会が多く（それはそれでいいのです

が・・・）、たまには侃侃諤々の例会もいいのでは・・・と考えていた時、迫田会員から『男の引き際』との話を聞いて、皆はどうかんがえているのかなあ・・・と考えたのがきっかけでした。こんな曖昧な思い付きで始めたものですが、会長に随分心配をかけまして色々アドバイスを頂きました。今日、きつといい例会が行えているはず・・・です。ま、こんな感じの委員長ですがどうぞ宜しくお願いします。

好きな言葉は『なんとかなる』です（笑）

会員交流部会 池本あきこ

今期、山領会長のご提案で新しく設けられた会員交流部会です。委員会のか枠を超えて全会員が参加できる部会です。会長からのお話として、ゴルフコンペ、健康のためのウォーキング、バーベキュー等会員同志が交流を深められる企画をしてほしいとのことです。

第1回は7月に事務局にてランチ交流会を行い14名の方の参加をいただきました。日頃の仕事の話や健康のことなど情報を交換し賑やかな

時間を過ごしました。

第2回は健康のためウォーキングで体を鍛えようという企画で一緒に汗をかきながら楽しく歩きました。今後とも会員同士の交流を深められる催しを計画しますので、皆さま奮ってご参加ください！



初回は、アメリカ合衆国カリフォルニア州の大学に3年の留学経験を持ち、西海岸の太陽のように周りを明るくしてくれる村瀬高広専務に話を聞いた。



思いを語る村瀬専務  
(グランドファースイン ロビーにて)

―村瀬専務のセールスポイントは。

いつも元気が信条です。何をするにしても楽しい方がいいと思う。そして、基本的にはことわらない性格で、まずは「何事でもやってみる」という前向きな姿勢です。

留学時代はサーフィンとスノーボードにチャレンジしました。今は、仕事と家族に専念しています。―今後の「専務」としての抱負を。

面倒見のいい山領会長のために頑張る。私は、直江さんの紹介で2012年にシープクラブへ入会しました。入会して間もない頃の寂しい時に、山領会長によく声を掛けていただきました。本当に嬉しかったです。今でも忘れません。シープクラブは独自の力で35年

もの歩みを続けています。入会して4年目の私でもその「すごさ」をあらためて感じています。山領会長の就任挨拶の中で「温故創新」という言葉がありました。この方針に沿って頑張っていきたいと強く思っています。



東京オリンピック 中田 博之

8月だったかに豊島氏から原稿依頼を受けたような気がするが、完全に失念していたら、村上委員長から締め切りぎりぎりになって催促が。

「何書けば良いの？」と聞いたら、「今の時期だからオリンピックとか」と言う事だったので、思い出の東京オリンピックの話。

52年前、まだ小学2年生でした。夏休みを終えて登校すると、クラスにテレビがあった。それまでは教育テレビの放送にあわせ、テレビの部屋に移動していたのがクラスで見られるようになった。たぶん、オリンピックにあわせてと言う事だったんだろう。

1964年10月10日、晴れ渡った青空の下で東京オリンピックの開会式。と言っても当時は白黒テレビだったが（笑）。その前のローマはまだ4歳だったからオリンピックと言うものを初めて知って、初めて見ただけにいまだに強烈に覚えている。

手動計時で1度は人類初の9秒台を記録した褐色の弾丸、ボップ・ヘイズ。泳ぐ精密機械、ドン・シヨラندر。オリンピック連覇のはだしの王様、アベベ・ビキラ。当然全階級を制したアントン・ヘーシンク。東京の花、チャスラフスカとか。

当然だが日本選手の活躍に胸躍らせた。東洋の魔女、女子バレーとか、国立競技場に入って抜かれてしまったマラソン・円谷幸吉。中でも男子体操の美しさに魅了された。おかげで今も男子体操が一番好き。ローマに続き2連覇を果たした団体に続き遠藤幸雄が初の個人総合優勝。この後、団体はモントリオールまで5連覇を果たし、個人総合も加藤沢男がメキシコ・ミュンヘンを連覇し日本選手が3連覇を果たした。それにしても今の演技は凄すぎて、昔夢の技を妄想していたが、それをはるかに凌駕している。ミュンヘンで塚原光男がムーンスルトを決めた時に時の体操連盟会長が「10点を出せるならつきたい」と言ったのだが、今の演技を彼が見たら何というのか？ちなみに東京では女子も銅メダルを獲得しているのだが、まったく目立たなかったなあ。

2020年、再び東京でオリンピックが開催される。オリンピックに使う金があったら復興にまわせ、景気回復対策にまわせ、と言う声もあるし、わからないでもないが、やはり世界最高の競技を日本で見られる、と言うのは大きな経験の子供たち、若者たちに与える事になると思うのだよ。怪しい無駄遣いはすべきじゃないが、ぜひとも成功させてほしいものだ。

10月10日の開会式（やはり体育の日はこの日に戻すべきだと思うなあ）から15日、10月24日の閉会式も本当に印象的なものだった。きちっとした感じの開会式と一変、日本選手団の旗手、福井誠選手が肩車に担がれ入ってきて、その後各国の選手が入り乱れ、肩を組んで入ってきた。本当は各国別に來るはずだったようだが、係員の制止も利かなかったらしい。

良かったよねえ、あれは。これか

ら戦いが始まると言う開会式と違い、全てが終わって戦い終えた選手たちによる「平和の祭典」という感じだったからな。最初、ちよつと呆れた感じのアナウンサーも非常に楽しそうに放送していたのを覚えている。最後、電光掲示板に記された「SAIONARA」の文字とともに、私もお別れします。



生まれ変わる村上彫刻

49期にして初めて出来た羅針盤

シープクラブ入会歴25年目にして、初めて真面目に仕事の事を語らせて頂きます。

村上彫刻は1964年に両親が創業。主に造船銘板製作を営んでまいりました。2004年、父の死亡に伴い、私が代表に就任した次第ですが、父母が培った基盤をそのまま受け継ぎ営業を続けて参りました。特に努力もせずとも経営も順調だったので、これが永遠に続くこと錯覚していたのです。

ところが！村上彫刻に危機が訪れたのが、3年前・・・これまで当たり前に取引があった地元造船業で、他県同業者との相見積もりが始まったのです。その後、非常に苦しい経営状態が続きましたが、1年程前に転機が訪れました。

きっかけは、村山会員から頂いた一冊の本でした。加藤諦三著『行動してみることで人生は開ける』です。この本に感銘を受け『自分自身もつと変わらなければ！』と決意し、経営革新に取り組みしました。経営理念を作り、それを基盤に数値目標・営業戦略・製造戦略を考案。今年1月に『経営計画発表会』を開催し、県

より経営革新計画の承認も頂きました。

この1年で見えてきた事、それは、多種多様化する経営環境の中「変化に対応した会社生き残る」という事です。今後も、経営理念『みんなが喜ぶものづくり』を実践する為、変化を恐れず、立ち止まる事なく歩んで行こうと思います。皆様、今後ともご指導ご鞭撻の程、宜しくお願い致します。



《次回の例会は》

100%&ワンゲスト例会

10月12日(水)開会18:00  
九十九島ベイサイドホテル

講演「活気あふれる県北佐世保」  
メモリード社長 吉田 茂視氏



※現在ゲストは28名、皆さん、増員にご協力下さい。